

高島平三郎

たかしま・へいざぶろう

教育者、心理学者、著述家

経歴

生: 慶応元年(1865年)10月1日、江戸・本郷西片福山藩邸に生れる

没: 昭和21年(1946年)2月15日、享年81歳

明治元年(1868年)	3歳	アメリカ船品川沖から鞆経由、福山西町に移住
明治5年(1872年)	7歳	藩校誠之館で学ぶ
明治6年(1873年)	8歳	西堀端の西町上小学校入学
明治10年(1877年)7月14日	11歳	西堀端の西町上小学校卒業
明治10年(1877年)	12歳	門田重長に漢学詩文を学ぶ
明治10年(1877年)	12歳	江間平一に算数を学ぶ
明治10年(1877年)	12歳	利根川浩に英学を学ぶ
明治11年(1878年)	13歳	広島県立広島師範学校福山分校入学
—	—	備後湊明館(館長:長谷川桜南)で漢文詩を学ぶ
明治13年(1880年)	15歳	西町上小学校教員
明治14年(1881年)4月～ 明治16年(1883年)3月	15～17歳	神村小学校須江分校教員
明治15年(1882年)	17歳	検定試験で広島県小学校初等科教員免許を取得
—	—	松永小学校教員
—	—	金江町金見小学校教員
—	—	働きながら、漢学、数学、英語などの識者に私淑
明治17年(1884年)9月～ 明治20年(1887年)3月	18～21歳	金江小学校校長
明治17年(1884年)	19歳	松永で開かれた伝習所で小学師範科の伝習をおえる
明治20年(1887年)3月	21歳	広島県師範学校訓導・助教
明治20年(1887年)10月	22歳	東京高等師範学校附属小学校教授掛補助
明治21年(1888年)9月～ 明治29年(1896年)	22～30歳	学習院教師

明治21年(1888年)～ 明治22年(1889年)	23～24歳	東京英語学校で英文学を修める
明治24年(1891年)～ 明治29年(1896年)	26～31歳	元良勇次郎博士の指導で哲学・倫理学・心理学を学ぶ
—	—	独学で哲学、教育学、児童心理学などを研究
明治29年(1896年)9月～ 明治31年(1898年)4月	30～32歳	長野県師範学校
—	—	成城学校
明治34年(1901年)11月	36歳	日本体育会体操学校校長
—	—	弘文学院
—	—	哲学館大学(後の東洋大学)で教鞭をとる
—	—	独乙協会
—	—	西方町・私立女子高等学園校長
—	—	立正高等女学校校長
明治36年(1903年)～ 明治45年(1912年)3月	38～ 46歳	日本女子大学校(現日本女子大学)教授
明治38年(1905年)	40歳	日蓮宗大学(現立正大学)教育学教授
明治39年(1906年)	41歳	東洋大学心理学教授
明治45年(1912年)2月1日	46歳	誠之舎舎長
大正6年(1917年)	51歳	内務大臣より民力涵養講師を囑託される
昭和2年(1927年)4月	61歳	東京立正中等高等学校校長(初代)
昭和3年(1928年)11月3日	63歳	教育功労者表彰
昭和3年(1928年)11月3日	63歳	勲五等瑞宝章
昭和15年(1940年)	75歳	高島先生教育報国六十年記念会
昭和16年(1941年)	76歳	福山学生会会長
昭和19年(1944年)11月～ 昭和20年(1945年)7月	79歳	東洋大学学長(第13代)

生い立ちと学業、業績

福山藩士高島賢斎の三男として、慶応元年に江戸阿部侯邸内に生れた。
号は蜻州。字は土信。

明治元年(1868年)福山に移住、誠之館、西町上小学校に学び、明治11年(1878年)14才で教員となり、熱心に生徒を教導すると共に自学独習、また自己の教養に努め、また何名か

の識者に私淑し、漢学・数学・英語等を学び続ける。

その才能は郡当局に認められ、神村、松永各小学校教員を経て明治17年(1884年)弱冠20才で金江小学校長に抜擢せられ、次で広島県師範学校・訓導に転じ、更に23歳の時、東京高等師範学校教授掛補助に栄転、明治21年(1888年)24才で学習院に招聘せられ、他日、我国教育界に重要な貢献の素地を築くに至った。

東京移住後も独学で哲学・教育学・児童心理学などを研究し、とくに児童心理学での彼の業績は日本の同学の基礎を築いたと評されている。

その後長野県師範学校・成城学校・日本体育会体操学校・弘文学院・哲学館大学(後の東洋大学)・独乙協会・私立女子高等学園、立正高等女学校などで教鞭をとり、教授又は学校長として青年子女の育成に貢献せられた。

氏は単なる学校教育者にとどまらず、社会教育者、心理学者、著述家としても、明治26年以来毎年1冊以上の児童心理・家庭教育に関する貴重なる著書を公にせられたほか、新聞雑誌にもかかわらず寄稿せられ、幅の広い教育家として稀に見る偉人であった。

日本女子大学でも、明治34年(1901年)より明治45年(1912年)3月まで教授を務め、児童心理学を担当した。

彼の学説はアメリカの児童心理学者スタンリー・ホール(G. S. Hall)の流れを汲むもので、子どもに対する限りない愛情を基軸とした理論と彼の教育者としての豊かな人格は当時の学生に深い感銘を与えた。

郷土に関係の深い東京誠之舎の舎監を20余年も勤め、郷土学生の指導に当たった。

昭和11年(1936年)6月15日、福山市金江町浜上(はまじょう)の丘の上に「高島平三郎詩碑」が建てられた。

これは高島氏が明治17年(1884年)9月10日にこの地で詠んだ詩を本人が揮毫したものである。

昭和15年(1940年)、皇紀二千六百年には教えを受けたものなど同志の数千名が「高島先生教育報国六十年記念会」を結成し、祝賀会と共に記念冊子を出版してその功績を讃えた。

漢詩、和歌、書道もまた一家を為し、全生涯を教育に捧げ勲五等に叙せられる。

昭和21年(1946年)歿、享年81歳。

関係団体

皇民会	同民会	哲学会	丁酉倫理会
心理学会	日本児童学会	時好クラブ	東洋大学心理学会
少年団日本連盟	少年団健児団	斯文学会	日本弘道会
中央教化団体	国際連盟協会		

誠之館所蔵品

管理No.	編著者	名 称	制作／発行	日 付
04769	高島平三郎 著	『通俗応用心理講話』	六合館	明治44年
04761	高島平三郎 編	『逸話の泉』	京文社書店	昭和9年
06791	高島平三郎 述	『吾が心境を語る(生立ち、経歴、教育論等)』	高島平三郎	昭和11年
04730	河本テル 編	『河本亀之助追悼録』	河本テル	大正10年
05569	東京芸備社 編	『高島壽子夫人追悼録 久遠の壽』	東京芸備社	大正14年
07148	佐々木龍三郎 著	『ぎんぎんざらざら夕日が沈む 童謡詩人 葛原しげる』	文芸社	平成26年

出典1:『備後先覚者名鑑(郷土を創った人々)』、12頁、式見静夫編、備後文化出版社刊、昭和35年6月

出典2:HP『日本女子大学』

出典3:『福山市金江町誌』、金江町誌発行委員会編刊、平成4年3月1日

出典4:『備後春秋(第70号)』、42頁、「温故知新(2)＝高島平三郎先生と河本亀之助＝」、佐藤楽之、備後春秋編集部編刊、平成12年7月1日

出典5:『「阿部正弘公」とその著者霽涯福田禄太郎先生伝』、140頁、福田禄太郎著、和田嘉郎編刊、昭和61年3月23日

出典6:『福山学生会雑誌(第67号)』、38頁、「叙勲されたる高島平三郎君」、一幹事、福山学生会事務所編刊、昭和3年12月30日

出典7:『福山学生会雑誌(第93号)』、61頁、「編集後記」、雑誌係、福山学生会事務所編刊、昭和16年12月5日

出典8:『福山いしづみ散歩』、173頁、「高島平三郎詩碑」、佐野恒男著、福山市文化財協会刊、1993年5月12日

出典9:『吾が心境を語る(生立ち、経歴、教育論等)』、高島平三郎述刊、昭和11年2月4日

関連情報1:『月刊 Asahi(1992/7)』、「20世紀日本の異能・偉才100人」、朝日新聞社編刊、1992年7月

関連情報2:『高島平三郎先生－教育報告60年 紀元2000年』、丸山鶴吉、高島平三郎先生教育報告60年記念会編、大空社刊、昭和15年11月10日

関連情報3:『日本心理学史の研究』、「高島平三郎の小児研究とその時代」、歴史研究部会編、法政出版刊、1998年

関連情報4:『通史 日本心理学史』、佐藤達哉・溝口元編

関連情報5:『河本亀之助追悼録』、37頁、「追想録」、高島平三郎、河本テル刊、大正10年1月30日

2004年11月12日更新:出典、著書・論文・関連情報●2005年5月11日更新:本文●2006年6月7日更新:タイトル●2007年4月6日更新:所蔵品●2007年4月9日更新:本文・主な著書論文●2007年6月7日更新:経歴・主な著書論文●2007年6月12日更新:所蔵品●2007年7月13日更新:経歴・出典●2007年9月20日更新:経歴・本文・出典●2008年4月10日更新:経歴●2008年7月7日更新:経歴●2008年7月10日更新:経歴・関係団体・主な著書論文・出典●2008年12月9日更新:経歴●2008年12月12日更新:経歴・出典●2010年2月8日更新:誠之館所蔵品●2010年6月18日更新:本文・探しています●2012年2月21日更新:経歴・本文・探しています・出典●2012年2月28日更新:経歴・誠之館所蔵品・探しています・出典●2014年10月30日更新:本文・誠之館所蔵品●